

維新政治を問う

大阪府教育委員会は2014年に「府立高校、大阪府立高校あわせて7校程度」の募集停止計画を策定し、16年度から池田北高校、咲洲高校、17年度から

西淀川高校と、すでに三つの府立高校の募集停止を強

行しました。9月5日の教育委員会会議ではさらに大



高校つぶしはやめよと宣伝する「大阪の高校を守る会」と府高教の人たち112015年10月15日、府庁前

正高校を泉尾高校に、西淀川高校を北淀高校に統合し、泉尾高校、北淀高校の校地でそれぞれ新校を設置する案を決めました。

定員割れは廃校

この背景には「3年連続

定員割れで再編整備」といふ大阪維新の会がつくった条例があります。

「学が権利」を保障するために設置されている公立高校の「定員」には「ゆとり」があつて当たり前です。志願倍率で競わせ、少しでも定員に満たなければ廃校にするなどの異常な対応は他府県には見られませ

ん。そもそも大阪の高校は他の結果、受験競争は激化が進められてきました。それが

子ども切り捨て

募集停止された3校では、保護者・生徒・卒業生・地域住民が声をあげ、総計で7万名もの反対署名を集約するなど、大きな運動が発展しました。それは、これらの学校が、過酷な競争につまづいた子どもたちを受け入れ、成長させ、社会に送り出す、地域になく

学生たちの学が権利奪い、教育ゆがめる府立高校つぶし



大阪府立高等学校教職員組合委員長

志摩 毅さん

府県に比べて突出して大規模となっており、学級定員も国の上限いっぱい40人に据え置かれています。「生徒数減少」で余裕がで

し、偏差値による学校の序列化が進んでいます。こうした中で、志願倍率による廃校を行うことは、過酷な競争の中で下位に置かれた子どもたちを切り捨て、「高校に行きたくても行けない子」を生み出すものです。また、学校を、生き残りをかけた「生徒獲得競

争」に投げ込み、限界まで来ている多忙化に拍車をかけるとともに、過度な「進学実績」の追求など、教育そのものをゆがめています。

(寄稿)